

# 牛流行熱に関するよくある質問

Q アブやサシバエは感染源ではないのですか

感染源は、牛流行熱ウイルスに感染した蚊・ヌカカのみです。発症牛の血液を吸血したアブやサシバエが、健康な牛を吸血しても、ウイルスは感染しません。

Q 感染牛の唾液や体液で感染しますか

感染しません。くしゃみや咳から感染することはありません。

Q 治療する方法はありますか。

解熱剤や鎮痛剤、輸液などの対症療法を行います。かかりつけの獣医師に相談してください。軽症の場合、無治療でも2～3日で回復することもあります。

Q 予防方法はありますか。

牛流行熱のワクチン接種は、発症を予防または発症しても症状を軽減する効果があります。また、吸血昆虫に対して忌避剤をもちいたり、蚊やヌカカの発生源を消毒したりすることで、牛が蚊やヌカカに刺される機会を減らすことができます。

Q 胎児に感染しますか。異常産や流産を起こしますか。

胎児には感染しません。奇形や神経症状などの異常産は起こしません。牛流行熱を発症した母牛が流産した事例はありますが、発熱などのストレスによる母牛の体調悪化が原因ではないかと考えられています。

Q 牛流行熱の牛を移動させていいのですか？

発熱など体調不良の牛を移動させることは、牛流行熱に限らず、するべきではありません。しかし、牛流行熱を発症しても、体調が回復すれば移動させても大丈夫です。牛流行熱は牛の体内でウイルスの生存期間は短く、発熱などの症状が改善すると同時期に、ウイルスは消失するといわれています。

Q 購買者です。八重山セリで買った子牛を、すぐに島外へ運搬してもよいですか。しばらく、島内で様子を見る必要はありませんか。

船積みの前に体調不良がなければ、通常通りに運搬してよいです。セリに上場されている子牛は、あらかじめ吸血昆虫の忌避剤を塗布しており、ウイルスを持った蚊やヌカカを運ぶ心配はありません。

牛を導入したらすぐに群に入れず、体調不良がないかどうか様子を見る期間を設けることは一般的な飼養衛生管理方法として重要ですが、牛流行熱に限ったことではありません。

八重山家畜保健衛生所

TEL 0980-84-4111 FAX 0980-84-4121